地球惑星科学委員会
地球・惑星圏分科会地球観測衛星将来構想小委員会（第 25 期・第 1 1 回）議事要旨

日時：2023 年 7 月 25 日(火) 13:00-15:00
場所：オンライン（zoom）開催

出席委員：高薮縁、沖大幹、中島映至、中村尚、福田洋一、古屋正人、村山泰啓、今村剛、榎本浩之、江淵直人、岡本幸三、岡本創、沖理子、笠井康子、金谷有剛、小池真、佐藤正樹、重尚一、祖父江真一、高橋暢宏、早坂忠裕、林田佐智子、本多嘉明、横田達也、松本淳（25 名）
欠席委員：藤井良一、佐藤薫、岩崎晃、中島孝、中島英彰、樋口篤志（６名）
（委員名敬称略、名簿順）

議　題
（１）第 10 回会合の議事要旨確認
（２）議事要旨及び会議の録音の取り扱いについて
（３）見解案原稿の査読対応について
（４）9 月シンポジウムの内容について
（５）その他

議事内容
（１）第 10 回会合の議事要旨確認
　前回の議事要旨はすでに公開されているが、修正点があれば本日中に報告してほしい。
（２）議事録の取り扱いについて
　今回の議事メモ・要旨作成を、幹事会一任ということが承認された。
（３）見解案原稿の査読対応について
　地球・惑星件分科会のレビュー対応は終了
　地球惑星科学委員会から承認を受けた。
　第３部会のレビュー対応は終了
　→地球惑星科学委員会の承認を受ければ見解の発出が可能のはずであるが、事務局に確認する。
　名簿の確認を実施した。

（４）9 月 12 日のシンポジウム開催について以下のような報告・議論を行った。
　〇全体について・開催方法についての議論
　企画書を提出し幹部会で承認された
　後援について、多くの省庁・学会で承認を得ている。

場所は学術会議講堂・対面のみとする。
会場（一般席２２９席　記者席１１２席）１５０名程度の参加を想定。
参加登録を google form で準備する。
シンポジウムの議事次第について確認した。
開催趣旨については、今後改訂の可能性がある。
ポスターを１ヶ月前（8 月 11 日）までに発出する必要があり、それまでに登壇者を確定する。人材育成（阿部様）に講演タイトルを確認する。
ポスターについて：良い図案を JAXA に依頼。
パネルディスカッションの議論についてモデレータと相談する。

〇パネルディスカッションについて議論した
（Key question を設定しておく必要がある（委員長のパワーポイントにまとめている）。基本は、見解にまとめた４項目について議論を行う。
特に、省庁に参加いただいているので、統合的な日本の長期計画をどうやったら作っていただけるのかのご意見をいただく。基本は宇宙基本計画であり、各人はそれぞれの専門分野の計画を線表に掲載させることに注力しているが、全体を見渡す努力もしているが、日本全体でという観点が欠けている場合がある。
論点は、地球衛星観測全体のエッセンシャルなことは何かを議論し、エッセンシャル項目を抽出し継続してゆく重要であり、その場合に日本全体を見渡す必要があり、これが統合的長期戦略につながる。
パネリストにスライド１枚準備してもらう。
パネリストに事前に見解を送付し、Key question を提示する。その上でブリーフィングが必要かどうか問い合わせる。
パネリスト以外の登壇者へのブリーフィングも実施する。
パネルで議論したい点は以下の通り。
・統合的長期戦略の構築についての意見、具体化のために何ができるか
・全体を見渡した議論ができる体制をいかに構築するか
・科学の高度化があって民間利用が進む
・データ配布体制を含めた体制
・我が国の地球衛星観測の国際貢献

〇Key questions 他について以下のような議論が行われた。
・CONSEO と TF が共催なのでその辺りの整理をしておく必要がある。政府は資金をもつ産業界がベースでやっていけば良いという意見ももつ
・省庁の縦割りを排除して日本全体を見渡す必要がある（高薮）
・趣旨にある「長期的展望に基づき」を誰が考えるのか？という観点での科学と実利用の長期的展望の議論や CONSEO で民間との連携の長期展望の議論が必要

・各分野の研究者が全体を見渡すことが重要（高薮）
・見解（２）について、「政策決定者は、・・・」の文言があり、社会の安定と発展が省庁の行政の役割であるとすれば、衛星観測に関する長期的な計画をつくことがどう重要かということについて各省庁の立場で意見を述べてもらうに問いかけておく。これにより科学者と行政のすり合わせのきっかけになる
・このことをさらに明確にすると気候変動問題と関連させた方が良く、政策立案者にインプットする機会とすべき
・気候変動とともに生物多様性も重要（高薮）
・省庁関係者に強調してほしいこともある＝気候変動など。科学と実利用が両輪であることを確認してほしい。
・産業界も科学技術の発展が事業化につながるので、そのような観点をもつ
・将来予算が削減されるような状況を想定した時に、何がエッセンシャルであるのかを決める必要がある、これらは線表に書いてあるが円くラウンドテーブルで示す必要がある。即ち、科学者同士で何が大事・インフラとして何が大事・産業発展として何が大事かをラウンドテーブルに書く必要があり、これがプログラム化となる（高薮）
・行政は日本のことを考えているので、必ずしも上のような議論にならない可能性がある
・実際には国際化などを考えると大きな目で見る必要がある（高薮）
・根本的には JAXA の所掌の内容に問題があり、研究開発法人であるため継続性は担保されず、継続性は各省庁への移管となるが、各省庁に対してはそこがうまくいっていないのではないか。
・諸外国でも同様なジレンマはある（米国 NOAA と NASA の関係など）なかでうまくやっているので、その点を役所関係者に発言してもらえると良い。
・役所的にはフロントローディング的な要素が不足しているので科学や産業界にその点で期待しているようであり、そのような観点でのアプローチが良い。
・フロントローディング的には、AI によるデータ抽出なども入れ込む必要がある。
・短時間の議論を盛り上げるという意味では、キャッチコピーが必要だと思うので、「地球は未知の領域に入った」＝地球は変化し続けている＝未知である、の言葉を使うのが良いのでは。
・役所的には、決まった財源で新しいことをしたい。

以上についてモデレータの沖大幹委員の意見を確認：
・関係者・特に役所のひとを集めて地球観測衛星の重要性を認めてもらう会として何を言ってもらうのが良いのか？
・宇宙科学に対して地球観測は実利用の観点で強調されるきらいがあるが、地球観測の面白さで対抗した方がよい。←地球観測は未知の科学であるという文脈でどうか。
・役所の人には実利用についてまとめて紹介する人がいるとよい。学術的な成果を含

めて。
・科学的にホットな話題や議論が沸騰している話題について紹介するのがよい。
・実用で人命に関わるようなことに貢献できることも紹介できると良い。

・皆様からのインプットを Key question としてまとめる。宇宙政策委員会設立から、TF 活動 CONSEO 活動などで体勢が整ってきた旨を講演に入れ込む（高薮）。

（５）その他
次の機会はシンポジウムになる。
9 月末で 25 期が終わるので、シンポジウム後に振り返りを行いたい。